

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870201120
法人名	社会福祉法人 今治市社会福祉協議会
事業所名	今治市社協 グループホームゆいの家
所在地	今治市大三島町野々江2435番地1
自己評価作成日	平成 25 年 8 月 15 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 25 年 9 月 11 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人ひとりの自由な意思を尊重しつつ、持っている力を発揮できるように役割を持ち生きがいの持てる日々を過せるように支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は2ユニット共に1戸建ての建物で、玄関及び居間も明るく開放的で過ごしやすい空間づくりがされており、家庭的な雰囲気にも包まれている。管理者及び職員は理念に沿って日々の暮らしを支えていることが、利用者の穏やかな表情から伺える。地域の行事には積極的に参加しており、事業所が開催する夏祭りには多くの地域の方の参加が得られており、ボランティアの参加もある。防災訓練にも地域の消防団や地域住民の協力がああり、地域との交流は深まっている。医療面に於いても利用者一人ひとりのかかりつけ医と連携が取れており、職員も把握している。また職員も内・外部の研修に参加しケアの向上に努めている。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

● 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。

● 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

● 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)

● 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。

● 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。

● チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 今治市社協グループホームゆいの家

(ユニット名) ゆいの家 I

記入者(管理者)

氏名 菅 千枝

評価完了日 平成 25 年 8 月 15 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 利用者さん一人ひとりの思いを大切にしながら笑顔で安心して過ごせるように皆で考え行動指針として共有し実践につなげている。	
			(外部評価) 「1日1回でも利用者が笑顔で輝いて過ごせるように」という理念は、職員間で話し合い作成し、玄関に掲示している。毎年、理念を基に職員全員で目標を決めて、行動指針として毎日唱和を行い、管理者と職員は共有して利用者の日々の暮らしを支えている。利用者の笑顔と穏やかな暮らしぶりから理念を実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域の行事には積極的に参加したり支部で行う夏祭りには高校生、保育園児また、地域の参加もある。また避難訓練は地域を交えておこなっており協力態勢も整っている。	
			(外部評価) 地域の情報は、利用者の家族や職員から得ることができ、地域の行事に積極的に参加している。事業所の夏祭りには、家族、地域住民、ボランティアの方々など300名あまりの参加があり、地域行事の一つとなっている。中学生の職場体験や介護実習生を受け入れ、保育園児の訪問もあり、交流を深めている。また、毎年末には高校生が窓拭き等のボランティアとして訪問してくれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 年間を通じて実習生の受け入れや学校関係の研修、体験実習、地域のボランティアを積極的に受け入れ認知症への理解を促進している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 事業所の取り組みやホームの課題、ひやりハット等報 告し貴重な助言を頂きサービスの向上へと生かしてい る。身体拘束についても色々な意見があり方向性の確 認ができた。	
			(外部評価) 運営推進会議は利用者や家族、市担当者、地域包括支 援センター職員、地域住民、社協役員等の参加を得 て、2か月に1回、隣接する事業所と合同で開催して いる。会議では、行事や利用者一人ひとりの状況、ヒ ヤリハット事例などの報告を行い、意見交換をしてい る。議題を決めて実施しており、今後の運営推進会議 のあり方についても話し合いをしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	(自己評価) 運営推進会議や行事その他においても連絡を取りなが ら協力関係が得られるように取り組んでいる。定期的 なゆいの家便りをお届けし理解を深めて頂いている。	
			(外部評価) 市担当者や地域包括支援センター職員が運営推進会議 に参加しており、事業所の報告や意見交換をしてい る。また、日頃から市担当者とは事業所の入所の状況 報告や救急搬入の報告をし、市の保健師に利用者の個 別の問題を相談するなど、連携を図っている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 外部での研修及び内部研修において拘束に関しての勉 強をし取り組んでいる。安全を確保しつつ自由な暮ら しを支援するための工夫を行っている。	
			(外部評価) 身体拘束のマニュアルを作成し、事業所内、外部の研 修に参加し職員全員で身体拘束をしないケアを理解し て実践している。研修に参加した職員はミーティング 等で報告し、職員全員で情報を共有している。事業所 内は開放的で、玄関は日中には施錠しておらず、居間 からも利用者は自由に入出りすることができる。台所 からも居間全体を見渡すことができ、職員は見守りな がら対応している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 利用者と一緒に暮らしている中、心地よい日々を過ごして頂く為にも身体的、精神的にも虐待の無いよう言葉かけや声の大きさにも気をつけ相手の身になって介護を続けるように心がけている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 制度について理解できおり必要と思われる場合は本部とも連携し活用できる態勢が整っている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約の際には十分な説明を行う。また改定等の際にも説明と理解を得てサインをもらっている。家族様が来所の際話し合いの時間を持ち疑問や不安の解消に努めている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 家族会においてのご意見や利用者さんやご家族さんへアンケートをお願いしご意見やご希望を教えて頂いたり、行事や日頃の様子を写真を多く載せているお便りをお送りして感想を頂き今後の運営に反映させている。	
			(外部評価) 運営推進会議や家族会を利用して、家族から意見や要望を聞くように努めており、訪問時に聞くことも多い。2か月に1回事業所便りと一緒に利用者の状況を郵送で家族に報告し、遠方の家族には電話等で連絡して意見を聞くようにしている。意見箱を玄関に設置しており、家族から出された意見は職員で話し合い反映している。	

自己 評価	外部 評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 職場での話し合い事業所内での個別面談、アンケート等での職員の意見や提案できる場面を設け説明をし反映させながら信頼関係を保っている。	
			(外部評価) ミーティングで職員一人ひとりの気づきや改善、提案等の意見を伝えることができる機会を設けている。また、管理者は日頃から職員が意見を言いやすい雰囲気づくりをしており、業務の中で意見を伝えることもできる。職員から出された意見は、職員で話し合い上司に報告して、サービスの向上に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 毎月のミーティングやセンター長会等で職員の意見が反映できるように、また衛生委員会で職場の環境について話し合い整備に努めている。各自が向上心を持って働けるよう外部、内部研修に全職員が計画的に参加できるように努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 研修計画を設けそれぞれに応じた研修の機会を持っている。また回覧等で研修の情報を提供し自主的にも活用しやすいように努めている。事務所内においても毎月内部研修の機会があり参加しやすいようにしている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) 研修の場での意見交換や毎年行っている相互研修において他の施設の情報を得、意識しながらサービスの向上に取り組んでいる。	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入所前に来所頂き面談、聴き取りしながら雰囲気を感じて頂く。家族さんからの情報を職員が事前に共有し把握しておく。帰宅願望強いケースもあり訴えがあると、その都度言葉を受け止め家族の写真を見ていたり散歩に誘い気分転換できるようにその場面に応じた対応を心掛け安心感が持てるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 契約時に家族さんの思いを伺いながら事業所としてどこまで支援できるか話し合っている。また随時相談に応じいい関係づくりに努めている。	
17		○初期対応の見極めと支援サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 本人・家族さんと話し合いその時々必要なサービス、事業所としてできる限りの対応に努めている。他のサービスを利用の場合情報を迅速に提供できるように努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) できる事の作業をお願いし、一人ひとりに役割をもって自然な生活場面が作られるように工夫している。またゆったりとした気持ちで安心して過ごせるよう支援している。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 地域性の為ご家族が遠方の方も多く行事や日常の様子等定期のお便りで報告したりクリスマス会や夏祭り、お誕生会にはご案内し一緒に楽しみ交流を深め合ったり希望時には電話で声を聞いて家族さんとの絆を大切にしながら本人・家族・施設が適切な距離を保ちながら心の通う支援を続けている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 地域の行事に出かけると知人が探しながらい会いに来てくれたり事業所の行事に招待したりと知人や友人との交流が続けられるような環境づくりや行きつけの美容室へも家族さんの協力をいただき利用できている。	
			(外部評価) 地域からの利用者が多いため、事業所には知人や友人の訪問が多く、職員は見守っている。利用者は家族の協力を得て、馴染みの美容室などに出かけることができるよう支援している。事業所には地域のボランティアの方の訪問も多く、新たな馴染みの関係になっている。利用者は職員と一緒に近隣の散歩や買い物に出かけ、近隣住民と顔馴染みとなっており、利用者が一人で歩いている場合は見守り等、気をつけてくれている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 食事の準備やかたづけ、掃除等お互いのできる事を分担してお願いし利用者さん同士で関わりあえるように支援に努めている。常時見守りと気配りを欠かさないように心がけ不安や支障をきたさないように適切な支援につとめている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 契約終了後も家族さんが来所されリサイクル品の寄付をして頂いたり行事のお誘いに思いで話しが盛り上がったたり、また相談に応じ必要な情報も提供できるように心がけている。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 一人ひとり言葉として出ていることばかりでは無く表情や態度でも思いや意向の把握に努め困難な方は家族様に伺ったり一人一人の思いを寄り添いながら把握し支援している。	
			(外部評価) 長く勤務している職員が多く、その日の利用者の表情や行動から汲み取り思いや意向を把握しており、ケアに繋げている。新たに得た情報は連絡ノートに記録し、職員間で共有して管理者にも伝えている。ミーティングで新たに得られた利用者の情報についても話し合い、職員全員で共有し利用者本位のサービスに活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 利用者さんとの日常の会話や面会時の本人を含めた家族さんとの会話の中でバックグラウンドを知りカンファレンスやミーティング等で共有している。常に本人の思いを考え会話の内容は考慮している。今まで生活してこられた馴染みの暮らし方を重視し支援に努めている。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) その日の状態の観察により全体像を把握する。一人一人の生活のリズムを大切にしながらその人の持っている力を大切にお願いすると快く協力して下さり笑顔が見られている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 本人や家族さんと話し合う時間をもち要望や意見を伺う。また利用者を取り巻くスタッフ全員によるミーティング時にモニタリングをして話し合い現状に即した介護計画作成できるように努めている。	
			(外部評価) 利用者の担当職員の意見を職員全員で話し合い、利用者や家族の意見を反映して介護計画を作成している。毎月、担当職員がモニタリングを行っており、ミーティングで利用者全員のカンファレンスを行い、新たな計画に繋げている。計画の実践記録は経過記録に残しており、毎月要約表を作成している。計画の見直しは3か月に1回行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々の実践の中から介護記録や一日チェック表、連絡帳を基に情報を共有し実践や介護計画の見直しに活かしている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 本人さんや家族さんの要望に応じて、外出、外泊ができるようにしている。またボランティアさんや隣接しているグループホームや小規模多機能ゆいの村との交流もある。地域の友人知人が自由に面会できるように支援している。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) お大師参り・地方祭・敬老行事等体調に合わせての外出で馴染みの方々との出会いも多く楽しまれている。家族様の協力で行き付けの美容院へも行かれています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 本人さんや家族さんの希望に応じてかかりつけ医の受診ができています。また協力医の協力も得られ適切な医療を受けられるように支援している。	
			(外部評価) 利用者が希望するかかりつけ医を、家族の協力を得て継続して受診できるよう支援している。かかりつけ医が往診して健康管理している利用者もいる。家族が受診の同行ができない場合は、職員が受診介助をして対応している。利用者一人ひとりのかかりつけ医は利用者の状態を把握するなど連携が取れており、協力医との連携もあり利用者は安心して利用することができる。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	(自己評価) かかりつけ医の看護師との連携や村の看護師に相談や協力を得ながら健康管理や適切な受診ができるような支援をしている。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時には家族さんや医療機関に必要な情報を提供している。家族さんや本人の意向に添って医師の指示の基、対応可能な段階で早期退院できるように回復状況を教えて頂いたり相談に応じている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 契約時説明し理解を頂いている。日頃から体調については家族さんの来所時話し合っている。本人さんや家族さんの意向を伺い状況に応じて医師、本人、家族、職員と話し合いできるだけ早い段階で相談しながら支援できるように努めている。	
			(外部評価) 看取りの指針を作成しており、事業所としてできないことを契約時に利用者や家族に説明して理解を得ている。看取りの経験も1例あり、最期は家族の希望で病院に搬送したが終末期の利用者のケアを職員は経験している。利用者の状態の変化に応じて、かかりつけ医、家族と話し合いを持ち、方針を決め対応している。	重度化や終末期のケアは、かかりつけ医、家族、職員等がチーム体制で取り組むことが望まれる。事業所で看取りを行う場合の体制づくりや職員の教育を継続して行うことを期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 職員は救急救命の講習は受けている。ホーム内での急な病変や困難時には連絡網により対処できるようにしている。ミーティング時にはひやりハットの事例を基に振り返りながら話し合っている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 近隣ホームと合同で災害時の避難訓練を行ったり消防関係者や地域の住民との協力を得、夜間を想定した訓練をおこなっている。訓練を重ねることにより問題点もみえ改善へと繋がっている。 (外部評価) 年2回隣接する事業所と合同で避難訓練を実施しており、うち1回は消防署や地域の消防団、地域住民の参加協力を得て行っている。また、事業所のユニット毎の訓練や地震、津波を想定した避難訓練も行っている。備蓄品の準備もして、防災対策に努めている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 日々の関わりの中で一人ひとりの誇りやプライバシーを大切に損ねることなく、日々楽しく心豊かに過ごせるように支援している。 (外部評価) 利用者の尊重やプライバシーの確保について、ミーティング等で職員間で話し合い意識統一を図っている。歯磨きやトイレ誘導は声かけなどに配慮して支援している。職員の離職も少なく、地元の職員や利用者が多く、利用者との日常会話は自然な感じで、お互いの信頼関係が築かれていることが伺える。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 一人ひとりが思いや、希望を表すことができるような言葉かけをし、自己決定できる場面を多く作っています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) フロア内、居室、玄関先など行ける方は自由に行き過ごしている。その日の体調に配慮しながらその人のペースで過ごせるようにできる限り満足して頂けるように支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 朝の着替えは本人の意思で決めており見守り、支援が必要な時は手伝っている。行きつけの理美容院へは家族と一緒にしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 下ごしらえや盛り付け等できる事をお願いし歯の状態や好み等に配慮しながら個々に楽しめるようにしている。片付けにおいても自ら仕事として協力して下さったり一緒にできるようにしている。	
			(外部評価) 食事は見た目にもこだわり盛り付けも工夫して利用者へ提供しており、楽しみの一つになっている。利用者は職員と会話をしながら食事をしている。また、利用者は下ごしらえや片付け等を職員と一緒にできることを手伝っている。献立は日によって野菜など差し入れがあれば変更する場合もある。病気のある利用者の食事は味付けや量等に配慮して提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 一人ひとりの食事量や好みを考慮しながら健康状態や歯の状態、飲み込む力などにも配慮している。水分補給もこまめに取れるようにしている。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 声かけにより毎食後の口腔内清潔はほぼできている。自分でできる方は見守り、支援が必要な方にはその方に応じた歯みがきのお手伝いをしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排泄を記録しその人に応じた声かけや誘導を行っている。できる限りトイレで排泄ができるように支援している。	
			(外部評価) 排泄を自立してできる利用者もいるが、一人ひとりの排泄パターンを把握し、利用者の行動に配慮して支援している。夜間のみ紙オムツを使用している利用者も、昼間は誘導してトイレで排泄できるよう努めている。夜間は職員が2時間毎に訪室し利用者に合わせて排泄支援をしており、睡眠を優先する場合もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 一人ひとりの排泄状態の把握はほぼできている。水分を十分にとり繊維質の多い食材を提供し予防に取り組んでいる。また適度な運動や主治医に相談して整腸剤の処方等早めの対応をしている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 利用者さんの希望にできるだけ合わせ体調を見ながら安全を確保しながら楽しんで入浴できるように支援している。職員にとっても利用者さんと1対1で話ができるよい機会です。	
			(外部評価) 利用者は状態に応じて1日おきに午後から入浴することができ、希望があれば毎日入浴ができる工夫をしている。入浴が苦手な利用者には、異なる職員が時間をずらして声をかけるなどの工夫をしている。入浴は利用者と職員が1対1での対応をしており、安心感が得られ安全に入浴することができる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 日中はフロアで自由な時間を持ちながら何時でも休息は出来ている。居室の換気や温度調節管理はこまめに行い気持ちよく休めるように支援している。夜間の状態も記録やミーティング時に確認出来その日の体調に合わせて支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 利用者さんがどのような薬を服用しているか何時でも確認でき変更時には申し送りノートで共通理解ができるようになってきている。体調変化の強いときには看護師に相談連絡し受診につなげ早めの対応にと心がけている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 一人ひとりの生活歴や能力を生かした役割を持って充実した時間を持てるように支援している。得意な縫物や千羽鶴を折り地域交流に届けたりカラオケにより自慢の歌を披露する機会を設けたり遣り甲斐を感じて頂けるように支援している。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 日々の散歩や保健・福祉センターへ出かけたりと気分転換しながらすごせるように支援している。地域の行事へは積極的に外出計画をたて安全に留意しながら家族さんやボランティアさんの協力を得ながら参加している。 (外部評価) 天気の良い日は事業所周辺を毎日散歩しており、利用者の安全な散歩コースとなっている。季節に応じた外出や地域行事にも計画を立て、家族やボランティアの協力を得て外出できるよう支援している。また、利用者の希望に応じて、買い物等に出かけられるよう支援している。医療機関への受診も家族の協力を得て行っており、利用者は外出する機会が多い。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 自分で所持してる利用者さんもおいでますが管理が困難な為小額です。必要に応じて買い物支援し家族さんから預かっている小使い帳の中から支払うことが多い。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人さんの希望があれば何時でも電話ができるように支援している。家族さんから荷物が届いた時など直接話ができるように支援し家族さんからも再々電話がかかり本人さんとの会話が続いている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 共有空間は季節の草花を生けたり壁には季節の貼り絵をして季節感を出すように工夫している。またゆいの家だよりを掲示し楽しんで頂けるようにしている。居室や共有場所等は温度管理に気をつけ利用者さんには居心地良く過ごして頂けるように工夫している。</p> <p>(外部評価) 居間は広くて明るく、開放的な空間となっている。利用者と職員と一緒に作った貼り絵や季節の草花、写真等が飾られており、季節感が感じられ家庭的な雰囲気となっている。風通しもよく居心地がよいため、昼食後も居室に帰られる利用者は少なく、畳スペースで仲良く昼寝をするなど思い思いの場所で過ごすことができる。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 思い思いに座る場所があり居室でゆっくりと過ごしたり気の合う同士が談話したり椅子やソファ等の配置にも工夫をしている。また畳台もあり、ゆっくりと休んでいる利用者さんもおいでる。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 家族さんの写真やお誕生日のカードを貼ったり好きな芸能人のカレンダー等を貼り心地よく過ごせるように工夫している。</p> <p>(外部評価) 居室は畳の部屋で広く、壁にはカレンダーや写真が飾られ、思い思いのレイアウトをして、落ち着きのある空間となっている。居室には利用者の使い慣れた家具やテレビなどを自由に持ち込むことができ、居心地良く過ごすことができる。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 視線に合わせた場所の表示や名札で自分の居室が分かりやすいようにしている。手すりを持って移動したり車椅子や歩行器がゆったりと通行できるようにし常に見守りしながら安全に過ごせるように支援している。</p>	

(別表第1の3)

評価結果概要表

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3870201120
法人名	社会福祉法人 今治市社会福祉協議会
事業所名	今治市社協 グループホームゆいの家
所在地	今治市大三島町野々江2435番地1
自己評価作成日	平成 25 年 8 月 15 日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	※「介護サービス情報の公表」制度にて、基本情報を公表している場合のみ、ここに記載
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 愛媛県社会福祉協議会
所在地	松山市持田町三丁目8番15号
訪問調査日	平成 25 年 9 月 11 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一人ひとりの自由な意思を尊重しつつ、持っている力を発揮できるように役割を持ち生きがいの持てる日々を過せるように支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は2ユニット共に1戸建ての建物で、玄関及び居間も明るく開放的で過ごしやすい空間づくりがされており、家庭的な雰囲気にも包まれている。管理者及び職員は理念に沿って日々の暮らしを支えていることが、利用者の穏やかな表情から伺える。地域の行事には積極的に参加しており、事業所が開催する夏祭りには多くの地域の方の参加が得られており、ボランティアの参加もある。防災訓練にも地域の消防団や地域住民の協力があり、地域との交流は深まっている。医療面に於いても利用者一人ひとりのかかりつけ医と連携が取れており、職員も把握している。また職員も内・外部の研修に参加しケアの向上に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

(別表第1の2)

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I. 理念に基づく運営
- II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人の関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取り組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 今治市社協グループホーム

(ユニット名) ゆいの家2

記入者(管理者)

氏名 渡辺 ミカ子

評価完了日 平成 25 年 8 月 15 日

(別表第1)

自己評価及び外部評価表

【セル内の改行は、「Altキー」+「Enterキー」です】

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
I.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価) 地域の中で生活している意義を踏まえた理念の中で、職員は利用者さんの状況に合わせて指針を全員でを考え、掲げています。利用者さんが地域の中で安心して暮らせるように理念を共有して実践につなげているように努めています。	
			(外部評価) 「1日1回でも利用者が笑顔で輝いて過ごせるように」という理念は、職員間で話し合い作成し、玄関に掲示している。毎年、理念を基に職員全員で目標を決めて、行動指針として毎日唱和を行い、管理者と職員は共有して利用者の方々の暮らしを支えている。利用者の笑顔と穏やかな暮らしから理念を実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価) 地域や学校関係の研修や実習の場として提供、交流している。又地域のボランティアさんの協力を得ている。事業所からは、地域の清掃奉仕の活動をしている。毎年、地域を交え大がかりな消防避難訓練の協力が得られている。	
			(外部評価) 地域の情報は、利用者の家族や職員から得ることができ、地域の行事に積極的に参加している。事業所の夏祭りには、家族、地域住民、ボランティアの方々など300名あまりの参加があり、地域行事の一つとなっている。中学生の職場体験や介護実習生を受け入れ、保育園児の訪問もあり、交流を深めている。また、毎年末には高校生が窓拭き等のボランティアとして訪問してくれている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価) 地域や学校関係の研修や実習の場として提供、交流している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	<p>○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている</p>	<p>(自己評価) 事業所の取り組み内容や、利用者状況、行事報告等、又評価結果、取り組み内容など話し合い参加者の貴重な意見を参考にし、サービスの向上に生かしている。又、年間を通して随時必要なテーマを話し合い、サービスに反映している。</p> <p>(外部評価) 運営推進会議は利用者や家族、市担当者、地域包括支援センター職員、地域住民、社協役員等の参加を得て、2か月に1回、隣接する事業所と合同で開催している。会議では、行事や利用者一人ひとりの状況、ヒヤリハット事例などの報告を行い、意見交換をしている。議題を決めて実施しており、今後の運営推進会議のあり方についても話し合いをしている。</p>	
5	4	<p>○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 運営推進会議のメンバーとしては、運営上の実態報告や現状の課題等相談したり、定期的なお便りを届け、理解を深め、協力関係が得られるように取り組んでいます。</p> <p>(外部評価) 市担当者や地域包括支援センター職員が運営推進会議に参加しており、事業所の報告や意見交換をしている。また、日頃から市担当者とは事業所の入所の状況報告や救急搬入の報告をし、市の保健師に利用者の個別の問題を相談するなど、連携を図っている。</p>	
6	5	<p>○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>	<p>(自己評価) 玄関の施錠だけでなく身体拘束をしないケアに取り組んでいる。利用者様の安全を確保しつつ自由な暮らしの支援をする工夫に取り組んでいます。</p> <p>(外部評価) 身体拘束のマニュアルを作成し、事業所内、外部の研修に参加し職員全員で身体拘束をしないケアを理解して実践している。研修に参加した職員はミーティング等で報告し、職員全員で情報を共有している。事業所内は開放的で、玄関は日中には施錠しておらず、居間からも利用者は自由に出入りすることができる。台所からも居間全体を見渡すことができ、職員は見守りながら対応している。</p>	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 事業所内での職員の虐待防止についての意識は高く、研修会に参加、又ミーティング等で共有している。今後さらに心身等あらゆる面での虐待防止に努めていきたい。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 事業所内で制度の理解を深めるための研修に参加し、更にミーティングで共有している。制度の活用できる為の体制は整っている。利用者家族さんに必要に応じて活用できることへの説明をしている。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 契約時の十分な説明はしている。又内容の変更は事前に説明をし、十分な理解は得られている。又、来棟時には話し合い、疑問や不安の解消に努めている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 毎年利用者さん、家族さんにアンケート調査で反映できるようにしている。又利用者さんやご家族様とのコミュニケーションの機会を随時もち何でも話せるような環境にしている。運営推進会議でも家族さんの意見が反映できるように努めている。 (外部評価) 運営推進会議や家族会を利用して、家族から意見や要望を聞くように努めており、訪問時に聞くことも多い。2か月に1回事業所便りと一緒に利用者の状況を郵送で家族に報告し、遠方の家族には電話等で連絡して意見を聞くようにしている。意見箱を玄関に設置しており、家族から出された意見は職員で話し合い反映している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価) 毎月のミーティング時意見や提案事項、要望等は必ず全員で出し合い反映できるようにしている。又随時意見が出しやすい職場であるように努めています。	
			(外部評価) ミーティングで職員一人ひとりの気づきや改善、提案等の意見を伝えることができる機会を設けている。また、管理者は日頃から職員が意見を言いやすい雰囲気づくりをしており、業務の中で意見を伝えることもできる。職員から出された意見は、職員で話し合い上司に報告して、サービスの向上に努めている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価) 職員の資格取得の支援や、休暇の取りやすい環境作り、又事業所の取り組みでは、衛生委員会で皆の意見を持ち寄り、職員のリフレッシュサークル、年2回の日帰り旅行、又職員全体のスキルアップ研修など各自の向上心に向けた研修会を持ち、職場の環境面の整備に努めている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価) 法人内外の研修が意欲的に受講できるように希望あれば機会を確保しやすい環境であり、一人一人の資格取得に向け協力的である。資質向上に向けていけるように進めている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	(自己評価) ほぼ毎月1回の研修会には交代で同業者との交流の機会があり、又相互訪問での他事業所との交流の機会がある。又、自主的に他事業所を訪問し意見交換会をし、参考に改革に向け取り組んだ。又、隣接した事業所での意見交換は定期的に行われ、それらを含めて、質の向上に努めている。	
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価) 入居前のサービス担当者や家族からの聞き取り等から、できるだけ本人さんの情報収集をしておく。又面接、見学等で少しでも、話し合いの場を持ち、馴染みやすくできるように勧め、又入居当初は家族さんの協力を得ながら、細やかに状態観察等、本人さんの安心感の確保に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 家族さんとの協力関係を最も大切にしている為、当初は特に状況報告等で話し合う機会を多く持ち、安心感に繋げている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) 主訴を聴きとり、状況観察、情報等から今必要な支援をプランに繋げ、他の必要な支援へとつなげて行っている。小集団生活の中での必要性も見えてくるが、必要に応じてサービス内容の検討もしている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 一人一人の能力に応じその時々役割を見つけ、できるだけ、職員と利用者で一緒にするようにしている。	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) 施設でできることとできないことの説明は入居時に説明をしている。又健康管理面では、少しの変化あれば状態の連絡をし、医療の必要時は協力を得る。又、衣替えはできるだけ家族の関わりを勧め、少しでも関係性の継続を保てるよう努めている。又、年間を通じて行事へのお誘いをして、職員との話し合いの機会を作っている。	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) 四季折々の地域の行事には出かけている。地域の神社や、公園、祭り等で地域の方との出会いや、ふれあい等楽しみにしている。又知人や友人の訪問は大歓迎をしている。美容院や主治医等は、行きつけが続けられるようにできるだけ支援はしている。 (外部評価) 地域からの利用者が多いため、事業所には知人や友人の訪問が多く、職員は見守っている。利用者は家族の協力を得て、馴染みの美容室などに出かけることができるよう支援している。事業所には地域のボランティアの方の訪問も多く、新たな馴染みの関係になっている。利用者は職員と一緒に近隣の散歩や買い物に出かけ、近隣住民と顔馴染みとなっており、利用者が一人で歩いている場合は見守り等、気をつけてくれている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) 個々の身体の状態、性格、相性等を考慮して散歩時の協力や、レクリエーション、日課の作業分担など、職員は皆の関係を繋げる役割に努めている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) サービス終了家族さんの関係性は大切にしている。必要に応じ、相談に応じている。先日は介護老人福祉施設に入居中の利用者の希望があり、来所される。楽しむ時間が持て、とても喜んで帰って行かれた。帰島時に立ち寄って下さる家族もある。	
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 気持ちを表現できる方は会話の中で意向を汲み取り思いを大切にし、表現の困難な利用者とは家族様の意見等を参考にしたり、出来るだけ表情等でその時の気持ちの把握ができるようにしている。 (外部評価) 長く勤務している職員が多く、その日の利用者の表情や行動から汲み取り思いや意向を把握をしており、ケアに繋げている。新たに得た情報は連絡ノートに記録し、職員間で共有して管理者にも伝えている。ミーティングで新たに得られた利用者の情報についても話し合い、職員全員で共有し利用者本位のサービスに活かしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 本人さんとの話の中や家族さんの聞き取りで、これまでの暮らしの様子等を把握して、できるだけ安心して生活ができるように支援しています。プライバシーへの配慮等気をつけています。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 毎日の健康観察、会話等でその日その日の心身状態がわかり、一人一人のできる事探し等で大体その人の能力により役割を作りをして皆で共同生活を楽しく送るよう努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価) 家族、本人の要望を聞き取り、職員で毎月ミーティングでカンファレンスを行い、モニタリングで検討し、意見をまとめて次の介護計画につなげている。支援経過の記録等、変化があれば随時家族に連絡し共有している。	
			(外部評価) 利用者の担当職員の意見を職員全員で話し合い、利用者や家族の意見を反映して介護計画を作成している。毎月、担当職員がモニタリングを行っており、ミーティングで利用者全員のカンファレンスを行い、新たな計画に繋げている。計画の実践記録は経過記録に残しており、毎月要約表を作成している。計画の見直しは3か月に1回行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価) 日々のケア記録や支援経過、モニタリングで情報の共有をして、実践、又介護計画の見直しに役立っている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価) 状況に応じた対応ができるように努めている。本人、家族のニーズはもちろん、ボランティア交流、研修の場として地域交流も積極的に行い、利用者さんの生活の場の広がり等、柔軟な支援に努めている。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価) 四季折々の地域の行事には出かけている。地域の神社や、公園、祭り等で地域の方との出会いや、ふれあい等楽しみにしている。又知人や友人の訪問は大歓迎をしている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 家族さんや本人の希望するかかりつけ医を大切に して、医師との連携もとりながら適切な医療が受けら れるように努めている。	
			(外部評価) 利用者が希望するかかりつけ医を、家族の協力を得 て継続して受診できるよう支援している。かかりつけ医 が往診して健康管理している利用者もいる。家族が受 診の同行ができない場合は、職員が受診介助をして対 応している。利用者一人ひとりのかかりつけ医は利用 者の状態を把握するなど連携が取れており、協力医と の連携もあり利用者は安心して利用することができ る。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 利用者に変化あれば看護師に連絡をして状態観察をし てもらい、医師に繋げ、個々の利用者が適切に受診や 看護が受けられるように支援している。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院でき るように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 利用者の入院時に随時必要な資料の提供をして、連絡 をとるようにして、状況の把握に努め、退院の見込み や時期の確認をとりできれば早く退院ができ、情報の 提供も受けやすい関係作りに努めている。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 契約時重要事項で示し説明をして納得はしてもらって いる。又家族さんの思いは伺って、状況に応じ、地域 の医師や関係者とも相談しながらホームでできる範囲 で相談に乗れるように努めている。	
			(外部評価) 看取りの指針を作成しており、事業所としてできるこ とできないことを契約時に利用者や家族に説明して理 解を得ている。看取りの経験も1例あり、最期は家族 の希望で病院に搬送したが終末期の利用者のケアを職 員は経験している。利用者の状態の変化に応じて、か かりつけ医、家族と話し合いを持ち、方針を決め対応 している。	重度化や終末期のケアは、かかりつけ医、家族、職員 等がチーム体制で取り組むことが望まれる。事業所で 看取りを行う場合の体制づくりや職員の教育を継続し て行うことを期待したい。

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) 職員は定期的な救急法訓練は受講していて、応急手当や初期対応のマニュアル等もあり、急変時の対応は毎回皆で振り返り、実践はほぼできていると思います。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 災害避難訓練、夜間を想定とした地域とのネットワークによる避難消火訓練は行われており避難マニュアルができています。そのつど職員全員で話し合い、振り返り等で身につけている。場面を替えての繰り返しの訓練ができています。	
			(外部評価) 年2回隣接する事業所と合同で避難訓練を実施しており、うち1回は消防署や地域の消防団、地域住民の参加協力を得て行っている。また、事業所のユニット毎の訓練や地震、津波を想定した避難訓練も行っている。備蓄品の準備もして、防災対策に努めている。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 一人一人に合わせた声かけができるように気をつけている。声のトーンや大きさ等にも気をつけ尊重した言葉かけにも気をつけている。又プライバシー保護はミーティングで話し合う機会徹底できていると思います。	
			(外部評価) 利用者の尊重やプライバシーの確保について、ミーティング等で職員間で話し合い意識統一を図っている。歯磨きやトイレ誘導は声かけなどに配慮して支援している。職員の離職も少なく、地元の職員や利用者が多く、利用者との日常会話は自然な感じで、お互いの信頼関係が築かれていることが伺える。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日常生活上であらゆる場面に対しての声かけは本人の気持ちを確認して、誘導や働き掛けをしています。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 一人一人のペースを大切に、散歩や外の好きな方にはいつでも自由に出られるように隣接している棟職員の協力で安全を図っている。一人が好きな方は、居室で過ごせる時間を持ってもらい、おおむね利用者の希望に添えるよう支援している。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 家族の協力等で馴染みの理、美容院に行く。自由に自分で選んで着替えができる、好みの洋服を選んで来てもらう等、身だしなみには気をつけて支援していけるようにしている。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 見た目を楽しめるように、食器や色どりや盛り付けの工夫をしたり、季節、行事食と一緒に準備をしたり、話をしながら楽しむようにして、できる方には下膳や洗い、拭き片づけも一緒にできるようにしている。	
			(外部評価) 食事は見た目にこだわり盛り付けも工夫して利用者に提供しており、楽しみの一つになっている。利用者は職員と会話を楽しみながら食事をしている。また、利用者は下ごしらえや片付け等を職員と一緒にできることを手伝っている。献立は日によって野菜など差し入れがあれば変更する場合もある。病気のある利用者の食事は味付けや量等に配慮して提供している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 糖尿病のある方、体重の増加気味の方、便秘気味の方等食物繊維や量、刻み等個々の調節をしている。又水分摂取は食事、おやつの時だけでなく、常にお茶を用意していつでも飲めるように細やかに対応している。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 口腔ケアは毎食後声かけをし、自分でできる方、介助の必要な方、拒否がある方、個々の対応で全員ができるように支援し、食事を終えた方から、流れで洗面所へ行くように支援している。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 排尿や排便のチェック表で一人一人の排泄リズムに合わせ、声かけ、誘導している。自立の利用者は、声かけ、見守りをしている。全員トイレでの排泄ができています。	
			(外部評価) 排泄を自立してできる利用者もいるが、一人ひとりの排泄パターンを把握し、利用者の行動に配慮して支援している。夜間のみ紙オムツを使用している利用者も、昼間は誘導してトイレで排泄できるよう努めている。夜間は職員が2時間毎に訪室し利用者に合わせて排泄支援をしており、睡眠を優先する場合もある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 一人一人の排便周期に違いがあり、便秘予防として、日々繊維質の多い食物を摂ってもらったり、腹部マッサージや、体操、散歩等で予防に取り組んでいる。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴時間帯はだいたい午後であるが、希望や体調の変化などに合わせ、毎日入浴ができるようにしている。入浴後のさっぱり感、気持ちよさを大切に、清潔保持の支援している。	
			(外部評価) 利用者は状態に応じて1日おきに午後から入浴することができ、希望があれば毎日入浴ができる工夫をしている。入浴が苦手な利用者には、異なる職員が時間をずらして声をかけるなどの工夫をしている。入浴は利用者と職員が1対1での対応をしており、安心感が得られ安全に入浴することができる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 安眠できるように居室の温度調節や換気をこまめに行い、夜間の安眠を誘う為に、昼間の活動を適度に支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 個別の薬袋を用意して職員が管理している。処方内容に変化があれば連絡ノートに記録し、全員が周知できるようにしている。又、体調に変化があればいつでも医師や看護師に連絡をし、早めの対応ができるようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 食事の準備、食後の片づけや洗濯、たたみは自分達から進んでしている満足感が毎日の生活の中で見られる。行事食やおやつ作りは一緒に作っている。これまでやってきた生活を振り返りながら能力に合わせ充実感のある生活の支援を続けていきたい。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 季節や気候、にあわせてほぼ毎日適当な時間帯に散歩に出かけたり、保健センターで、健康機器の利用でリラックスして貰ったり楽しみの1つとして生活支援を続けています。又、地域の行事には家族と一緒に出かけたりしています。	
			(外部評価) 天気の良い日は事業所周辺を毎日散歩しており、利用者の安全な散歩コースとなっている。季節に応じての外出や地域行事にも計画を立て、家族やボランティアの協力を得て外出できるよう支援している。また、利用者の希望に応じて、買い物等に出かけられるよう支援している。医療機関への受診も家族の協力を得て行っており、利用者は外出する機会が多い。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) 個別の小遣い帳は事務所で管理しているが、神社やお大師参り等での賽銭は一人一人に渡し本人が直接、賽銭箱に入れお参りしている。又、買い物の支援は希望に応じている。出張パン屋さんが来て希望者は買うことがある。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 本人からの申しではほとんどないが、電話がかかってきた時は、必ず本人が話せるようにしている。個人の荷物が届いたときは、受け取りやお礼は直接話ができるように支援している。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 玄関、ホールには季節の生花が常に入れてあり、壁面には季節感のある飾り付けをして、温度、湿度は自然の風がとりいれられるようにして、居室には個々に温度計を置きエアコンを適宜使用で、居心地良く過ごせるように工夫している。</p> <p>(外部評価) 居間は広くて明るく、開放的な空間となっている。利用者と職員が一緒に作った貼り絵や季節の草花、写真等が飾られており、季節感が感じられ家庭的な雰囲気となっている。風通しもよく居心地がよいため、昼食後も居室に帰られる利用者は少なく、畳スペースで仲良く昼寝をするなど思い思いの場所で過ごすことができる。</p>	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	<p>(自己評価) 座る席には特に考慮し利用者同志が会話したり楽しく過ごせるように配慮している。和室やソファー等利用したり、玄関や玄関先など思い思いに過ごせるよう配慮している。</p>	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	<p>(自己評価) 居室には今まで使ってきた馴染みの物や家族との写真などを貼ったり家族が面会に来た時に楽しい時間が過ごせるようにしている。</p> <p>(外部評価) 居室は畳の部屋で広く、壁にはカレンダーや写真が飾られ、思い思いのレイアウトをして、落ち着いた空間となっている。居室には利用者の使い慣れた家具やテレビなどを自由に持ち込むことができ、居心地良く過ごすことができる。</p>	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	<p>(自己評価) 場所がわかりやすいようにトイレ、居室には大きくわかりやすいように表示して、棚の整理で、何が何処にあるか決めていつでも誰でも取り出せるように整理している。危険な、刃物は事務所で管理し、本棚の本や新聞はいつでも読めるように整理している。</p>	